



# 総務省椎川審議官との懇談会

作成者：3年 河原、三木 2年 今田、古庄  
1年 岩崎、辻(辰)

## 概要

09年1月10日（土）の9時～11時に宇城市役所において総務省の椎川審議官との懇談会が行われました。椎川審議官は熊本県の視察を行う際に熊薬生と話をする機会を設けてくださいました。



## Q&A

中央省庁に薬学部出身の人はいますか？

総務省には薬学部出身者はいませんが、厚生労働省、環境省などにはいます。また、東京消防庁にも化学災害対応として、薬学部出身者がいるとのことでした。

今動物実験をしている中で、生物に与える環境の影響はとても大きいと感じる。人間にとっても同じことがいえると思うが、実際によりよい住みやすい環境作りをするために、総務省がしていることはありますか？

東京にしていると、物価は高く、休日などは自然の中でリラックスしたいと思うし、地方での生活が本来の姿ではないかと思う。地方と協定を組んで、子どもたちを地方に短期間滞在させたり、都会での生活に疲れて地方に移住したい人のために、再就職のサポートなどを行っている。

国民一人一人に対して、環境を守るために様々な試みがありますが、どれくらい効果がありますか？

効果は上がっているとのこと、特に主婦層を中心に環境に対する意識が高いそうです。しかし、働く人々にとってはまだまだ意識が低いそうで、ここの自治体でもその地域の住人が中心になって積極的に行動しているそうです。

中央管庁訪問の際に環境に関してここは見てほしいものというものがあれば教えてください。

環境に関しては、環境省などが詳しいため、できればそちらのほうを訪問してほしいと思います。

## 二次的ミッションと最終ミッション

社会や組織に入るとみんな二次的なミッション(専門的な仕事)をこなしていくことを目的としますが、二次的なミッションをこなすだけではだめで、最終ミッション(二次的ミッションを行うことによって社会を豊かにすること)によって社会をよりよいものにしていくことが重要である。

## ～感想～

今回の総務省の方のお話を聞いて、総務省の活動について分かるようになりました。総務省には薬学と関連ある消防庁があり、予防、救急、消防など、私たちの身の回りの危険を最小限にとどめる努力を常に行っていることを知りました。また、日本では、各市町村が消防機関(消防本部・消防団)を設置することとされているが、東京では一つの消防(東京消防庁)で23区をすべてカバーしていることを知りました。また、今の国家公務員制度では、職業の細分化、専門化が進んでいるので、難しくなっているというお話を聞きました。

また、環境問題も取り上げられました。今の総務大臣は、地域力創造プランという理念を掲げていることを知りました。例えば、都会というのは、便利はあるが、温かみ、他人との関わりに欠けていることからの精神的な問題が生じているようでした。今はみんなが都会に向かおうとしているので、価値観がとて偏っていることが問題であることを知りました。田舎には田舎の良さがあることを認識し、さまざまな価値観が必要だと知りました。

また、市町村合併の問題についても、取り上げられました。今では、市町村合併によって市町村の数が激減しました。まだまだ、合併は進むと思われるのは、昔より人の活動範囲が広くなり、隣接する市町村間に文化的な違いが少なくなったことも原因だそう。ただ、今では、「合併」だけではなく、「連携」という考えが取り上げられているそう。例えば、A市とB市で病院を共同で運営したり、A市とC市で球場を共同で建設するなど、必要に応じて分野ごとに周辺の自治体が連携するというものでした。そのようなことをすれば、合併しなくてもより高度な医療や施設を利用できることが分かりました。そして、田舎の診療所と都会の大病院が情報を共有することで、田舎でも安心した生活が送れるようになり、人口の局域化を防げることを知りました。これは、たとえば熊本市と阿蘇地域などとの間でも言えるとのことでした。

今回、総務省の方の話を聞くことによって、総務省が私たちの生活環境をより良いものにしていくと最善の努力を行っていることが良く分かりました。また、総務省には、薬学出身者がいないということなので、薬学出身者が総務省に新しい考え方を生み出せる可能性があることを知りました。今回の体験をこれからの大学生活に生かしていこうと思いました。(T.T.)

平成21年1月10日、宇城市松橋の宇城市役所の会議室で、約1時間環境エコファーマを担う薬学人育成プログラムの一環として、総務省の椎川審議官とのディスカッションを行いました。

この懇談会はすぐれた環境マネジメント能力と行動力を育て、環境と命を守る行動は薬学人を育成するプロジェクトの先駆けとして行われました。

このプロジェクトでは、これからの薬学人に必要だと思われる4つの資質、「自主性」「いたわりの心」「国際性」「視野の拡大」を得ることを目標としています。そこで、自分は視野の拡大という点に重点を置き、次のような質問を考えていました。『学業に従事する私たちが外の世界である社会の実態を見て学ぶという機会は少ないです。そこで、各方面を視察する中で実際に感じたこと、理系学生にこうあってほしいと思っていられることを教えていただきたいと思います。』しかし、あまり時間がなく、3年生と1年生の質問による質疑で残念ながら聞くことはできませんでした。

けれども、薬学出身者が中央官庁でどのように活躍されているか環境対策の取り組みとして総務省が実行していることなどさまざまな話を聞くことができました。特に、医療ネットワークの今のあり方を、都市機能と田舎生活の共存を例にした話が現実的で印象に残りました。あまり薬学との共通点を想像しにくかった総務省にはやはり薬学出身者はおらず、環境エコファーマという点においては、環境省のほう結びつきが強く、正面から環境をとらえた視点からのディスカッションとは感じなかったものの、とてもよいお話を聞くことができたと思います。(H.F.)



講師：椎川 忍 総務省官房地域力創造審議官  
参加者：3年：河原、三木、 2年：今田、古庄、1年：岩崎、辻(辰)  
教官：高濱和夫、白崎哲哉(環境分子保健学)